

「やってみたい」

おも
その想いに応えたい。



問 生涯学習課 TEL (36)5533・FAX (36)2665

15〜39歳の若者を中心に、本市ではひきこもり状態にある人が約440人いると推計されています。一人ひとりが抱える悩みや背景はさまざまで、「相談したいけれど、どこに行けばいいかわからない」「一歩を踏み出すきっかけが見つからない」という声も少なくありません。

本市では「008（ゼロゼロエイト）」という、地域全体で子ども・若者を支え、相談だけで終わらない新たな仕組みづくりを進めています。

令和8年度には、子ども・若者が安心して過ごし、自分らしく挑戦できる居場所「8（はち）ラボ」が誕生しました。今回は、8ラボを利用している2人のインタビューから8ラボの魅力をご紹介します。

なおみさん（仮名）／20歳

中学生から続く
集団生活へのストレス

小学生までは普通に過ごしていたんですが、中学校では学校に行くことそのものがストレスになり、1年生の秋からは行くことができなくなりました。高校にも進学しましたが、全日制に行けず、すぐに単位制に切り替えました。3年生まではあ

◀趣味は絵を描くこと・ギターを弾くこと



まり単位も取れなかったんですが、一念発起して4年生で44単位を取りました。高卒認定試験を受けて単位を認めてもらうなど、とにかくこの1年は一生懸命張り、卒業することができました。こんな風に行動できたのは、担任の先生の存在が大きかったです。とてもフレンドリーで、用事がなくても学校に来てと誘ってくれ、一緒にバドミントンや人生ゲームをしました。私の異変にもすぐ気付いてくれ、自分のペースで行動するところを見守ってくれました。今でも連絡を取り合う、尊敬する人です。



もいいんですが、何かのデザインがしたいです。その上で、自分のペーシングで働けるのが理想ですね。自分のデザインした絵がどこかに貼られていて、それをお客さんが喜んでくれていたらと想像すると、とてもうれしいです。



小豆さん（仮名）／21歳

ここまでの私

私には軽度の自閉症があり、小さい頃から人と関わるのが難しく、限られた友だちや、一人で行動することが多かったです。家族や周囲の先生たちの支援のおかげで不登校にはならなかったのですが、父親の病気をきっかけに京都から滋賀県に引っ越してきた時は、からかわれたりすることもありました。

人の縁がなくなってきた

高校の時、勉強は苦手でしたが、留年はしたくないと頑張ってた勉強しました。それで卒業まで滞り着けることはできましたが、大学には進学



相談窓口へつながるきっかけ

高校4年生の時、父親が病気になる、SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）という学校内の相談員さんに学校のことや家庭のことなどを相談しました。幼少期に母親を亡くしていたこともあり、父親が病気になる時は強く動揺していたんです。このSSWさんが、卒業後に困った時のためと、在学中に市の相談窓口につなげてくれたことが、「008」に出会ったきっかけです。

市の相談支援員さんとこまめに約束をして、学校で会ったり、「あつまルームこわか」で会ったりしました。父親も亡くなり、生きているだけで精一杯だったので、人としてやべらないと気分が落ち込んでしまう状況でした。そんな中、相談支援員さんと会う約束があるおかげで、とても助かりました。

8ラボを使ってみて

8ラボでは、地元でコンセプトアートやキャラクターデザインの仕事をされている人と出会い、どういう風に仕事をされているか、今はど



▶なおみさんの作品



子ども・若者のみんなを応援します

8 ラボは、不安や悩みを抱えながらも、前に進むきっかけを探している子どもや若者が安心して過ごせる居場所です。「好き」や「やってみたい」を実際の体験につなげ、挑戦する中で人との出会いや学びを得ながら、一人ひとりの可能性を広げ、未来へ踏み出す初めの一步を応援します。

若者の皆さん！何をしたいですか？

- ☐ 自分の思いを誰かに聞いてほしい
- ☐ 友だちがほしい
- ☐ 自分の思いをかたちにしたい

活動の拠点としても使えます！

- ☐ 自分の家ではできない料理をしてみたい
- ☐ 作ったアクセサリーを販売したい
- ☐ 大型スクリーンでゲームがしたい

8 ラボでの取り組み



ラーメン作り

ラーメン好きの「作ってみたい」という興味から企画が始まり、仲間が集まりました。どんな一杯にするかをみんなで話し合い、オリジナルメニューを考案。圧力鍋でチャーシューをじっくり仕込み、スープや具材にも工夫を凝らしながら本格的な一杯を完成させました。それぞれのアイデアを持ち寄り、協力する楽しさや達成感を共有できました。

カレー作り

市販のルーを使わず、数種類のスパイスを調合し、野菜をたっぷり使った本格カレー作りに挑戦しました。香りや味の変化を楽しみながら、みんなで試行錯誤を重ねて調理を進める時間は、自然と会話が進みました。時間をかけて完成したカレーは、格別のおいしさでした。

この他にも一人ひとりに合わせた取り組みを実施中！



活動拠点はこちら

■ 毎週木曜日 午前 10 時～午後 6 時
■ レンタルスペース オンザルーム
(近江八幡市鷹飼町 1545)

利用無料・申込不要

問 TEL (36)5533 (生涯学習課)
TEL 080(2619)2843 (魚見)
✉ 008.zerozeroeightpj@gmail.com



▲008HP



＼ 駅から徒歩 5 分 /



8 ラボプロデューサー 魚見 航大

京都で靴やバッグの修理店「革靴をはいた猫」を運営するとともに、8 ラボのプロデューサーを務めています。まずは気軽に参加して、上手くやることよりも「来てよかった」と楽しく元気になる場を目指します。



がっています。近江八幡では、たくさんの方が自然に関わり合い、支え合える土壌があると感じています。地域の企業や団体、住民の皆さんと連携しながら、誰もが役割や居場所を見つけ、社会とのつながりを実感できる機会を増やしていきたいと考えています。一人の挑戦を地域みんなで応援できるまちへ。そんな近江八幡を、皆さんとともにつくっていきましょう。

8 ラボプロデューサーから

若者の皆さんへ

私は、人との出会いが人生を磨くと信じています。異なる価値観や生き方との出会い、リアルな体験を通じて、自分でも気づかなかった可能性が見つかることがあります。8 ラボでは、社会や地域とつながる機会を大切にしています。「少し気になる」「変わりたい」その気持ちだけで十分です。ぜひ気軽に遊びに来てください。皆さんとの出会いを楽しみにしています。

家族の皆さんへ

私は子育ての経験はありませんが、これまで多くの親御さんが、お子さまと真剣に向き合い、悩みながら支えている姿を見てきました。子どもの変化のきっかけを待ち続けることは大きなエネルギーが必要です。だからこそこの取り組みでは、小さな出会いや体験を通じて、一歩踏み出す機会をつくっています。ぜひ一緒に未来を考えていけたらうれしいです。

地域の皆さんへ

子どもや若者の成長は、ご家族だけでなく、地域の未来にもつながっています。

8 ラボを使ってみて

私は積極的ではないものの、好奇心旺盛で、チャンスが巡ってきたら何でもやってみたい性格です。ワークショップでは、近江八幡のことを考えたり、みんなで話し合ったり、いい刺激になりました。他の人と自分の考えているものが違う感じが面白かったです。次もあったら行こうかなと考えていて、気付いたら何回も行ってしまいました。この間はみんなと一緒に理想のラーメンづくりをしました。



これから見つけた

今まで、友だちが私から離れていくのがとても怖くてさみしかったです。素の自分は引かれてしまつと考え、母親の助言を取り入れながら、経験を積んで、上手く自分を隠せるようになりました。でも、それだけじゃダメなことも分かっていきます。自分に何ができるのか分かりませんが、8 ラボなど第三の居場所のように自分を温かく受け入れてくれる場所で、やりたいことを見つけていきたいと思っています。

